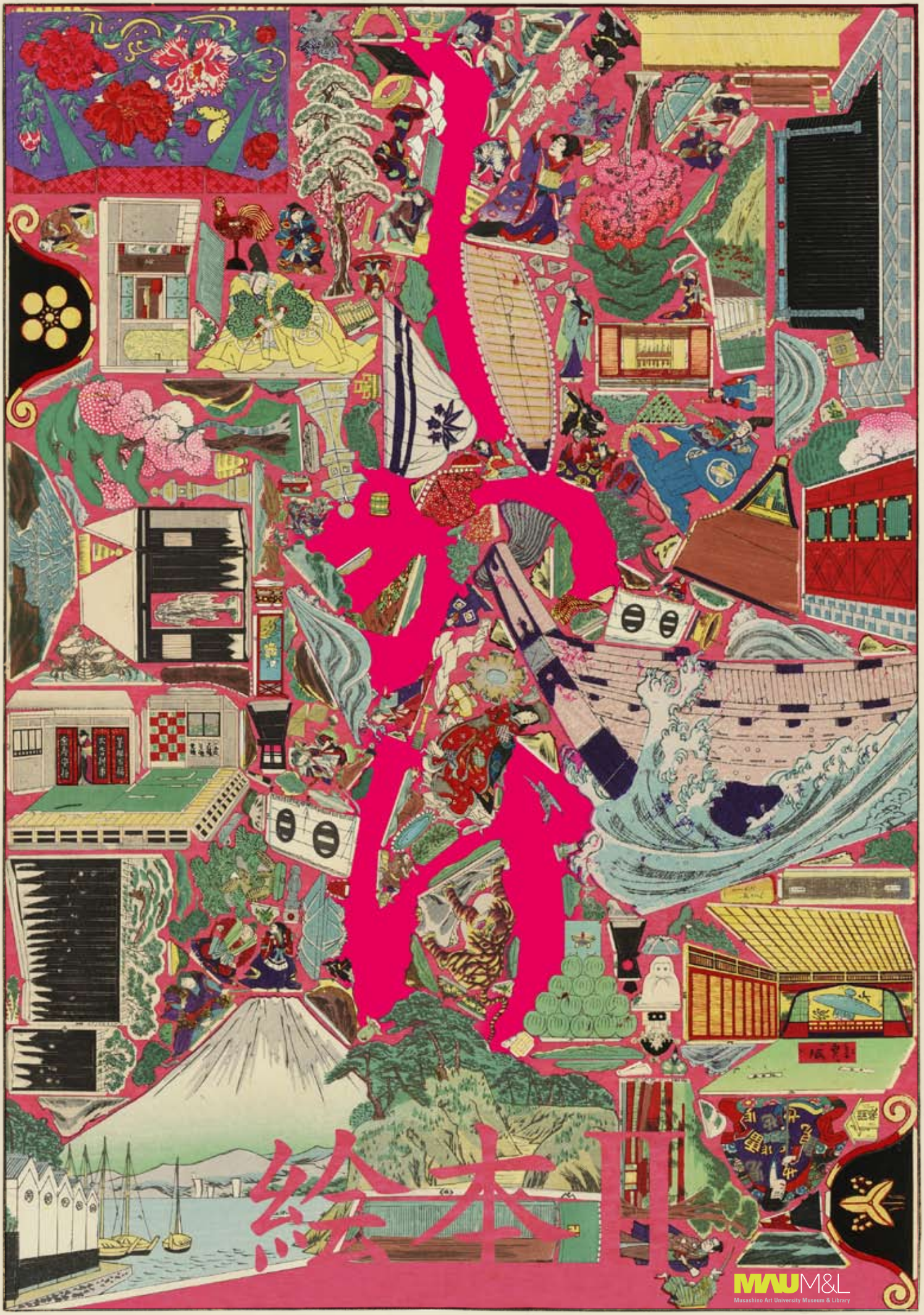
前期：二〇一四年九月十六日［火］ヨリ十月二十四日［金］マデ　後期：二〇一四年十一月三日［月・祝］ヨリ十一月二十九日［土］マデ

絵本II

江戸から明治に見るあそびのしかけ



会場：武蔵野美術大学 図書館展示室、大階段 ― 休館日：日曜日、祝日、芸術祭期間［十月二十五日ヨリ十一月二日マデ］＊十一月三日［月・祝］は特別開館

時間：午前十時ヨリ午後六時マデ ＊土曜日、特別閉館日、十月二十一日ヨリ二十四日は午後五時閉館 ― 入館料：無料

MAU M&L
Musashino Art University Museum & Library

一

二

三

四

五

しかけ絵本Ⅱ：江戸から明治に見るあそびのしかけ

このたび、武蔵野美術大学美術館・図書館では、「しかけ絵本Ⅱ：江戸から明治に見るあそびのしかけ」を開催いたします。

わが国には江戸初期から三百年もの間、継がれてきた独自の手あそびの文化があります。

十七世紀半ば頃に江戸庶民のくらしの中にあった「絵双六」は、数百年にもわたり実に多種多様なテーマで制作されていて、現代においても定着しているあそびの文化のルーツでもあります。また、十八世紀後半頃から十九世紀にかけて、色摺木版の一枚摺絵である「おもちゃ絵」が隆盛となりました。これらは、教育的な役割も担っていた子どものための知育玩具であると同時に、現代の絵本の前身を見ることができます。

さらに、一枚摺絵やその数枚セットになった錦絵を切り抜いて組み上げ、立体的な造形を愉しむ「組上燈籠」とか「立版古」と称された独自のしかけものがありました。そこには一枚の紙に描かれた平面構成から視覚的な立体構造を形づくるデザインに職人芸の極致を見ることができます。

本展においては、江戸から明治にかけて流行していたおもちゃ絵、判じ絵、尽くし絵、絵双六、組上げ絵、立版古、フラップしかけの作品など百十点余りを集めて紹介します。

とりわけ、本展の見どころは、上方や江戸のあそびの花形であった組上燈籠、組上げ絵、立版古の作品を組み上げた実物三十八点が愉しめることです。一枚の浮世絵を切り抜いて組み上げられた立体ジオラマの魅力を堪能していただき、現代のヴィジュアルコミュニケーションの先駆けでもあったおもちゃ絵などを通して、広重や芳藤ら浮世絵師たちの大胆でウイットにあふれたしかけの表現技法や、独特の色摺木版技法の世界にも目を向けるきっかけとなれば幸いです。

五

一．新板東海道細見双六
画・版元：不明
出版地：不明
出版年：江戸前期

二．書誌事項不明
画：四代目歌川國政
印刷兼出版者：井上吉次郎
出版地：日本橋
出版年：明治23年11月

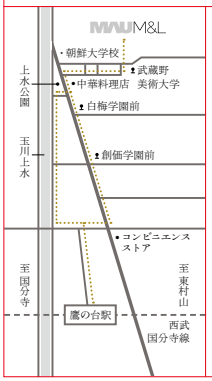
四．「祭礼遊び」
画：歌川貞信／版元：上州屋金蔵版
出版年：［幕末期］

五．［極彩組み上げ燈籠太功記］八枚一組
画：長谷川貞信／版元：不明
出版地：大阪
出版年：［明治初期］

前期：2014年9月16日［火］—10月24日［金］
後期：2014年11月3日［月・祝］—11月29日［土］
休館日：日曜日、祝日
芸術祭期間［10月25日—11月2日］
＊11月3日［月・祝］は特別開館
時間：10時—18時

＊土曜日、特別開館日
10月21日—24日は17時閉館

入館料：無料
会場：武蔵野美術大学 図書館展示室
大階段
主催：武蔵野美術大学美術館・図書館
監修：佐久間保明
［本学教養文化・学芸員課程研究室教授］
講演会：10月初旬開催予定

住所：武蔵野美術大学美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel.042-342-6004 Fax.042-342-6451
http://musmi.musabi.ac.jp

交通アクセス
一．西武国分寺線「鷹の台」駅下車徒歩18分
二．国分寺駅北口よりバス
「武蔵野美術大学」下車すぐ
［バス所要時間約20分］